

教師ビンビン物語 ～一期一会の進路学習～

私が40歳になった時の10月27日のことである。ピッカピカの若い先生たちを迎えて、学級指導の授業をした。名付けて「新規採用教員授業研修講座」。

さて、3年8組39人、この子たちにどんな授業をしようか。私は迷わず題材を「個性を生かした進路の決定」とした。4月以来、体育会、修学旅行、学校祭などを通じて喜怒哀楽を共にし、日増しに「あうんの呼吸」「以心伝心」のこの生徒たちである。

言うまでもなく、中学3年生の最大の課題は「進路の決定」である。その進路を決定するには▽自己を知る▽上級学校を理解する▽職業の世界を展望する—ことが不可欠の前提条件だと考えている。そして、進学であれ就職であれ、最後は自己を生かし個性を発揮することが、最高の幸せだとも思っている。

よし、「高校選択、職業選択に当たって考慮しなければならないことを発表してごらん」と聞いてみよう。きっとこの子たちは「学力、授業内容、進路、給料、生きがい・・・」と答えるに違いない。そうしたら「その中で大事にしたいものは？」と問いかけよう。そうすれば「個性を生かすこと」に気づくだろう。そうして、39人の個性を思いっきり表現させよう。

構想が決まる。生徒は、それぞれが選び、考えて取り組んだソロバン、タイプライター、英語対話、技術・家庭、習字の作品紹介、器楽や歌唱発表、ダンス演技など、思い思いの個性を発揮する。BGMは、リチャード・クレイダーマン。司会の生徒がアドリブや新任の先生にインタビューして、場の雰囲気盛り上げる。

終えて生徒いわく、「楽しかった」。そして、何よりも私自身に成就感が残る。不惑で知り得たこの子たちの一番いいところを確認、表現し合えたことの充実感である。新任の先生が、こう感想に書いている。「生徒のパフォーマンスが、あそこまでできる学級の雰囲気がすごい」。私にとってはうれしい感想である

さて、I中の校長先生の座右銘は、「啐啄同時（そったくどうじ）」である。「ひながかえろうとする時、殻の中で泣く（そつ）親鳥は外から突っついてひなが出てくるのを助ける（たく）、その瞬間がぴったりにして殻が割れてひなが産まれる。転じて師弟間の欲求が熟し、指導のタイミングがよく合い、教育が成り立つ」ということだそうである。

それにしても、いやに学級の生徒がかわいい。生徒の私を見る目がまぶしい。きっと年をとったからに違いない。

—— 後日談がある。全員の進路が決定し卒業した3月末のこと、地域の体育館を借りてみんなが集まるという。私も呼ばれて参加し、スポーツに心地よい汗を流した。別れて愛車に乗り、ゆっくりスピードをあげてふと後ろを見る。何と生徒たちが車の後を走って追いかけてくるではないか。じわ〜と涙があふれる。何といい子どもたちなんだろう。学級担任って何ていいんだろう。

これらの教師ビンビン物語は、私の生きがいとなり、私の人生を豊かにし、教師人生に鮮やかな彩りを添えてくれた。